

一九七八年四月一日の二三時半頃、神宮球場でヤクルト・スワローズのデイブ・ヒルトンがレフト線にツーベース・ヒットを放ったとき、外野席にいた村上春樹は、小説を書くことを決意したという。彼は当時二九歳で、千駄ヶ谷で「ピーター・キャット」というジャズ喫茶を経営していた。そうして『風の歌を聴け』（一九七九年）が出来あがり、ヴォネガットやブローティガンの影響下にあったことを作者じしんが認めているその作品は、群像新人文学賞を受賞する。同作と、つぎの『1973年のピンボール』（一九八〇年）は芥川賞候補になるが、落選。その後、村上は、カーヴァーやチャンドラーやサリンジャーなどの翻訳を精力的に手掛け、多くのエッセイや紀行文なども発表しながら物語を創造し続けて、野間文芸新人賞や谷崎潤一郎賞、読売文学賞、フランツ・カフカ賞、エルサレム賞などを受賞し、近年では、ノーベル文学賞候補の筆頭に挙げられている。

村上春樹は長編小説も書けば短編小説も書く。彼によれば、短編小説は陸上競技でいうと短距離、スプリントの世界であり、長編小説はフル・マラソンの世界である。村上は自らを「生まれつき長距離ランナー」——じつさい彼はフル・マラソンを走り、トライアスロンにも参加する！——であるとみなし、「基本的に長編作家」だと述べている。これまでに一三

## 記憶をめぐる冒険



## 村上春樹

生年 ▶ 1949年生まれ

出身地 ▶ 日本、京都府京都市伏見区(兵庫県芦屋市育ち)

活動拠点 ▶ 日本  
(かつてはイタリア、ギリシャ、アメリカなどに滞在)

作品の特徴 ▶

夢と現実、光と闇、「こちら側」と「あちら側」が交錯するシュールレアリスティックな世界が、独特の比喩と語法で描き出される。

日本語で読める作品リスト ▶

『風の歌を聴け』（講談社文庫）  
『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』（新潮文庫）  
『ノルウェイの森』（講談社文庫）  
『ねじまき鳥クロニクル』（新潮文庫）  
『1 Q 84』（新潮文庫）  
『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』（文藝春秋）  
『女のいない男たち』（文藝春秋）  
他多数